

第4回 「データから世界を読み解く
－AI時代のデータサイエンスと“問いを立てる力”－」

日時	2026年10月17日（土） 15時00分～16時30分
講師	野口 怜 准教授 東京理科大学 経営学部 ビジネスエコノミクス学科
講義概要	<p>皆さんがインターネットで買い物や動画を視聴しているとき、魅力的な「おすすめ」が表示され、ついクリックしてしまうことがあると思います。この背後では、膨大な量のデータから、「次に何に興味を持ちそうか」を予測する技術が使われています。私たちの何気ない行動は、実は人間の好みや行動パターンを映し出す「痕跡」として、SNS、医療、スポーツ、買い物など、さまざまな場面でデータとして蓄積されています。</p> <p>近年は分析技術の発展によって、こうした大量の「痕跡」データから未来を予測したり、人間には見えにくい規則性や傾向を発見したりすることも可能になってきました。しかし、データは自動的に答えを教えてくれるわけではありません。そこから何を読み取り、どのように解釈するかには、人間の知識や経験、そして「問いを立てる力」が必要です。</p> <p>本講演では、医療やSNS分析などの実例を交えながら、データサイエンスの面白さと、AI時代における「問いを立て、考えること」の重要性を分かりやすく紹介します。また、講演者自身の学生時代や研究者になるまでの経験にも触れながら、中高生の皆さんが探究活動や進路選択を考えるヒントとなる話題も取り上げます。</p>
参考図書	・『教養としてのデータサイエンス 改訂第2版』北川源四郎, 竹村彰通 (編) 内田誠一, 川崎能典, 孝忠大輔, 佐久間淳, 椎名洋, 中川裕志, 樋口知之, 丸山宏 (著)、講談社 (2024)